



# 読書山梨

Yamanashi Prefectural Library



## ピックアップ県立図書館

図書館まで行くことなく本を借りられたら、と思っている方に、電子書籍はいかがでしょう。電子書籍を利用すると、パソコンや、スマートフォン、タブレット端末などで、いつでもどこでも、検索や貸出手続きをして、画面上で本を読むことができます。また電子書籍には、文字の拡大や読み上げ、全文検索など、紙の本にはない便利な機能があり、シニア世代の方にも人気です。

電子書籍のご利用は、図書館で利用者登録をした後、ホームページから、「マイライブラリー」に登録してください。また、電子書籍専用のタブレット端末も、館内でご利用いただけます。

サイトリニューアルやコンテンツの充実により、電子書籍はますます便利に使いやすくなっていますので、ぜひご利用ください。



## あなたの利用カードは だいじょうぶ？

図書館利用カードの有効期限は、登録日から3年です。有効期限を過ぎると、図書館資料の貸出、サイレントルーム・パソコン席・視聴覚ブースの座席申込、書庫入室などのサービスが受けられなくなりますのでご注意ください。

更新の手続きをしていただくと続けて使うことができます。現在お使いの図書館利用カードとご本人の氏名・現住所等が確認できる書類（運転免許証、健康保険証、学生証等）をご持参の上、サービスカウンターにて更新の手続きをしてください。有効期限の3ヶ月前から受け付けています。カードの有効期限は、図書館WEBサイトのマイライブラリーで確認できます。サービスカウンターでもお調べしますので、職員にお尋ねください。



## 阿刀田 高館長よりご挨拶

# 本を買おう

「本を買おう」と、図書館員の私が言うのである。違和感を抱く方もいるだろう。

確かに図書館は無料で人々に本を提供する存在である。すべての人々に公平に読書の機会をもたらすことを旨としている。それゆえに民主主義の原点とも見なされている。

それはその通りであり、とりわけ無料で文化の原点に触れられるのはすばらしい。図書館を運営する立場としては、利用者の要求に応え、より広く、より速く、この長所に配慮し、より便利に機能することが肝要であり、その努力はそれなりにまっとうされているだろう。

無料は多くの利用者にとって文句なしにありがたい。が、ここには大きな陥し穴も伏在しているのだ。

本は本来有料で利用されるべき商品であり、よい本を創り出すことは、けっして簡単なことではない。図書館がどんどん利用され、多くの人が無料で読書を楽しめるのは、よいことだが、無料ばかりにポイントが置かれると、先行きは危ない。図書館の無料だけが原因ではないが、昨今は本が売れず、町の書店が次々にシャッターをおろし、出版社の倒産も多い。過去の出版物は安く、広く、早く、便利に利用に供することには弊害が少ないが、本を有料で購う意識が薄れたら優れた出版物は生まれにくい。読書の未来は先細りとなる。図書館は優良な出版物を未来に存続させることにもおおいに関心を持つ必要がある。これも図書館の命綱なのだ。そして利用者には「時には町の書店を覗いて本を買ってください」と、それが山梨の、日本の、未来を支えることにつながると知っていただきたい。



## Information

### イベント案内

- 「おんがくかいぶらり」 4月12日(日)
- 「こどもにすすめたい本2015」展示 4月22日(水)～5月12日(火)
- 『『白磁の人』上映会』 6月21日(日)

### 編集後記

春風が心地よい季節となりました。皆様はどのようにお過ごしでしょうか。昨年度は、「やまなし読書活動促進事業」の一環として、様々な催しを当館で行いました。幸いにも、どの企画も好評でした。支えていただいた皆様に感謝いたします。今年度も皆様のご期待に応えられるよう、様々なイベントを企画していきたいと思っております。

(企画振興担当 保坂なつみ)



山梨県立図書館報

## 読書山梨137号

発行日 平成27年4月1日

発行：山梨県立図書館（かいぶらり）

〒400-0024 甲府市北口2丁目8番1号

TEL:055-255-1040(代表) 055-255-1041(施設予約) FAX:055-255-1042

URL: <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

E-mail: [ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp](mailto:ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp)

## 事業報告

贈りたい本  
大賞

## やまなし読書活動促進事業

# 「贈りたい本大賞・大賞発表」[2月15日]

当館では、本を贈る習慣を広めることを通じて読書活動への理解を深める「やまなし読書活動促進事業」の一環として、「贈りたい本大賞」を募集しました。これは、「親」「恋人」「友だち」など贈りたい相手として設けた6部門に、書名、著者名、推薦文などをお寄せいただくもので、予想を上回る2,617点の応募がありました。その中から30点に絞り、一般投票で大賞を決定しました。各部門の大賞は、小林美優様(甲府西高校)、佐野敏昭様(甲府市)、中村みつ江様(笛吹市)、鈴木大輔様(都留高校)、鈴木悠莉様(中央市)、菊原真美様(甲府西高校)の6名で、学校賞8校とともに「やまなし読書活動促進事業サードステージ」の中で表彰いたしました。





おたすけ  
教室夏休み自由研究・工作おたすけ教室  
[8月20日・21日]

昨年度に続き「夏休み自由研究・工作おたすけ教室」を開催しました。当日は、子どもたちに情報の調べ方や、情報を活用する能力を身につけてもらえるよう、各分野の専門家が、自由研究や工作を行う際のテーマの選び方や進め方についてアドバイスをしました。また、図書館職員が本の並び方や資料検索端末の使い方など、図書館での調べ方のコツを説明しました。子どもたちにとって、調べる場としての図書館の使い方や、発見するよろこびを知る機会となりました。

講演会  
&  
トークショー

## 藤原正彦氏講演会 [11月11日]

「やまなし読書活動促進事業セカンドステージ」として、数学者で作家、お茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦氏の講演「祖国とは国語」を開催しました。藤原氏は、現在の初等教育における英語重視の方針をユーモアを交えつつ批判され、国語こそ教育の基礎、語彙を増やすことが何より大切で、それには読書が欠かせないと強調されました。また、「祖国」とは領土でも民族でもなく母国語のことで、今こそ祖国を意識し、ローカリズムを見直すべきであるとお話もありました。続く阿刀田館長とのトークセッションでは、様々な興味深いやり取りがありましたが、特に、藤原氏が大学で実践された「読書ゼミ」のお話は多くの方が感銘を受けるものでした。



## 朗読会

かいぶらり朗読の集いー県民の日朗読会  
[11月20日]

県民の日の夜7時から、昨年に続き山梨放送のアナウンサーをお招きした朗読会を行いました。出演は浅川初美、和泉義治、櫻井和明、土谷映未、原香緒里、吉岡秀樹、依田智子の7名の皆様。朗読作品は山梨県にゆかりの深い太宰治の「九月十月十一月」「黄金風景」や宮沢賢治「さるのこしかけ」、新美南吉「うた時計」など幅広い年代の皆様にお楽しみいただける小品で、さすがプロフェッショナルと思わせるすばらしい朗読をご披露いただきました。

入館  
200万人入館者200万人達成！  
[1月10日]

平成27年1月10日午後1時55分、平成24年11月11日開館以来の入館者が200万人に達しました。午後2時から記念セレモニーを開催し、200万人目の入館者となった富士吉田市在住の間根山寛之さんご一家に、花束、阿刀田館長のサイン色紙、昨年映画化された辻村深月氏著「太陽の坐る場所」などの記念品を贈呈しました。当館は、平成25年5月25日に50万人、同年11月20日に100万人をそれぞれ達成しました。開館以来、多くの皆様に御利用いただき、深く感謝申し上げます。今後とも図書館サービスの充実を図り、暮らしやビジネスを支える知的文化の拠点として、山梨県民図書館の構築に努めて参りたいと考えております。

資料展示  
報告

## 資料展示報告

- 1「本をいろいろ読んだ山梨の画家」 【7月19日～8月31日】
- 2「交換展示 大宮アルディージャVSヴァンフォーレ甲府」  
【9月18日～10月13日】
- 3「歌人・山崎方代～生誕100年～」 【10月17日～11月9日】
- 4「図書館と読書の秋～山梨県立図書館開館2周年記念事業～」  
【10月22日～11月30日】
- 5『甲斐国志』成立200年 【11月12日～12月28日】
- 6「雪を知り、冬を楽しむ」 【12月3日～3月1日】
- 7「霊峰富士を仰いで～富士と信仰～」 【1月7日～2月15日】
- 8「ヴァンフォーレ甲府開幕戦応援展示」  
【2月20日～3月15日】



## やまなし読書人

須藤令子さん (朗月堂 代表取締役)

わたしの書店では、毎月2回よみきかせ会を開催しています。もうかれこれ15年以上も続けてきました。最初のうちは落ち着きがなく、お隣さんにちょっかいをだす子や、なかなかじっとしてられない子ばかりでした。でも不思議なことによみきかせ会に何回か通うと、みんなすっかり礼儀正しくなります。本には、それくらい子どもの心を引きつけるパワーがあるのだと思います。

現在は、DVDやゲームなど、本以外にも子どもの関心を引きつけるモノがたくさんあります。そして忙しいと、どうしてもひとりで遊んでくれるそれらのモノに頼りがちになります。でも、子どもの心を豊かに育むのは、やはり本がいちばん優れているのではないのでしょうか。こんな時代だからこそ、紙の本を、ヒトの声で読む(聞かせる)、という行為に大きな意味があるのだと確信しています。

毎回よみきかせ会に来てくれる子どもの成長を、親戚のおばちゃん気分嬉々として眺めるのも、私の楽しみのひとつなのです。